

## 公民館を訪ねて

# ひろがる笑顔、つなげる絆、心ふれあう中藤島

## 中藤島公民館

### 1 地区の概要

中藤島地区は福井市の北部に位置し、昭和48年の新国道8号線の開通、昭和49年には福井市中央卸売市場の完成、さらに、平成8年に開始された中央市場周辺土地区画整理事業の完了に伴って、大型商業施設や家電量販店、そして、メディア関係の施設が集積し、一大物流基地となっている。これらの進出と相まって急激な人口増加が進み、大小のアパート・マンション等も急増している。

地区の北側には県内最大河川の九頭竜川が流れ、西側にはJR北陸本線、東側には国道8号線が縦断し、地区内がルートとなっている北陸新幹線の工事も2023年の開業に向けて着実に進められ、地区の景観が大きく様変わりしつつある。

舟橋は、北国街道と九頭竜川の要の宿場町として栄え、48艘の渡しは、天下の三舟橋の一つとして謳われた。平成14年に模型の作成、平成15年に再現を行っている。また、広さ1km<sup>2</sup>の高柳遺跡は縄文時代晩期から中世にかけての複合遺跡で、九頭竜川流域の暮らしの変遷を知る貴重な資料が数多く出土している。

平成29年4月には公民館が旧中藤小跡地に移転新築され、充実した施設に生まれ変わった。

平成30年9月1日現在、人口は12,393人、世帯数は4,727戸となっている。

### 2 地域の最大イベント「なかふじ龍神まつり」

#### ～地区住民のふれあいと絆づくりをめざして～

平成7年から、これまでの「夏まつり」を「龍神まつりINなかふじ」として規模を拡大して開催を続けた。

そして平成23年には、検討委員会を立ち上げ、まつり継続の是非や意義・目的等について改めて協議を重ねた。その結果、平成24年度以降も新たな理念で「なかふじ龍神まつり」として継続することとなり、現在に至っている。龍神まつり実行委員会、公民館、自治会連合会が主催し、すべての地区住民が楽しめる恒例行事として定着している。また、近年の課題となっ

ている人口増加に伴う住民相互の絆や連帯意識の希薄化を解消するうえでも大きな役割を担っている。

今年度は、中藤ふれあい公園を会場として7月21日（土）に開催され、各自治会や諸団体など、約40のテントが所狭しと立ち並び、飲物・ゲーム・食品販売など様々な模擬店が出店された。また、特設ステージでは、和太鼓の演奏や、自治会対抗の「早食いメドレーリレー」などが行われた。その他、子どもたちがテントを回ってゲームを楽しむ「遊びのチャンピオン」、  
「民踊タイム」、「抽選会」などが行われ、例年のない猛暑の中、大盛況の内に無事終了した。



### 3 みんなの川を美しく！

#### ～ 九頭竜川クリーン作戦 ～

古来から地域の人々の生活に深くかかわってきた清流「九頭竜川」の魅力を再発見し、みんなが安全に、安心して集える美しい川をめざして、平成26年から毎年4月に流域の環境美化活動を行っている。

中藤島地区では、九頭竜川左岸の福井市九頭竜浄水場からJR北陸線鉄橋までの約4kmに渡り、子どもからお年寄りまで、みんなでゴミ拾いを行っている。

今年度は4月15日（土）に他地区と共に一斉に開催され、約300人の地区民が清掃活動に汗を流し、参加者相互の連携と交流を図ることができた。



## 4 中藤島地区社会教育推進大会

### ～ 住みよいまちづくりをめざして ～

地域の生活環境がめまぐるしく変化し、急激に人口が増えていく中、地域住民の連帯意識の希薄化や地域コミュニティの弱体化が進み、地域づくりの担い手不足などが大きな課題となっている。

当地区では、このような社会状況の変化を見据え、よりよい地域づくり、住みよいまちづくりをめざして毎年1月に「社会教育推進大会」を開催している。昭和55年にスタートして以来今日まで、着実な歩み続け大きな成果をあげている。地域事業のあり方、地区の防災対策、子どもたちの未来、食育や環境問題など、毎年様々なテーマを設定して、講演会や分科会、パネルディスカッションなどの形式で実践を重ねている。

子どもから高齢者までが一堂に集い学ぶ、まさに地域の生涯学習を支える大きな事業となっている。



## 5 「公民館の歩み」の発刊

### ～ 地域と共に活動の足跡を刻み続ける ～

新築された公民館の明るいエントランスを入ると、地区民の憩いのスペースである「談話室」の書架にずらりと並んだ「公民館の歩み」が目飛び込んでくる。

昭和61年の初版から現在に至るまで、その年1年間の活動を冊子にまとめ続けている。内容は、館の年間活動方針、教育事業の概要、地区事業、公民館だより「ふれあいなかふじ」などで、公民館を拠点とした地域の活動をほぼ全て振り返ることができる。

平成23年からは、公民館の活動と地域事業の概要を

すべての地区住民に周知し、地域への愛着と地区事業への参加意識を高めてほしいという思いから、自治会加入世帯すべてに配布を行っている。

また、他府県や県内他地域からの移住者が増加しつつある中、中藤島地区の様子や魅力を発信するための大きな手だてにもなるため、今後も発刊を続けていきたいと考えている。



## 6 終わりに

中藤島地区は、急激に人口が増加し、商業施設も多く、大変便利な地区に発展した。しかし、その反面、大小のアパート・マンションが建ち、現在、全世帯の約3分の1が自治会未加入であり、地域としての絆の希薄化が進んでいる。

各種事業の改善を試行し、より多くの人を巻き込みたいと取り組んでいるが、その核となるのは、地域の自然遺産である清流「九頭竜川」であると考えている。

これを、まちづくりの核として位置づけ、今後も九頭竜川とリンクした様々な事業を企画・展開していきたいと考えている。

また、新公民館完成というハード面の完備に合わせて、今後は教育事業の更なる活性化を中心とした、ソフト面の充実にも力を注いでいきたいと思う。

めまぐるしく変化しつつある中藤島地区は、人口増加に伴う自治会組織の希薄化や地域の担い手不足などの課題があります。これらの課題に、公民館・関係団体が一丸となって立ち向かい、歴史と伝統を残しつつ新たな取組に挑戦されている様子が伺えます。今後も、新公民館を拠点に、新旧住民の輪が広がり、地域コミュニティが充実・発展されますことを心よりお祈りいたします。